

京都府下の産業保健活動に携わる保健婦・看護婦の業務実態調査

調査態勢

主任研究者	京都産業保健推進センター所長	横田 耕三
共同研究者	産業保健相談員	古木 勝也
共同研究者	産業保健相談員	大山 孜郎
共同研究者	産業保健相談員	佐藤 篤彦
共同研究者	産業保健相談員	藤田 裕
共同研究者	産業保健相談員	志岐 初子
共同研究者	松下電子工業 看護職	梓山 節子
共同研究者	(財)京都工場保健会 看護職	堀川 淳子
共同研究者	京都信用金庫 看護職	山下 恵子
共同研究者	ライフプランニング 看護職	栗岡 住子

1.調査目的

京都府下には、これまで、産業の場で働く組織化された保健婦(士)、看護婦(士)准看護婦(士)(以下、産業看護職と称する)の団体や会がなく、産業看護職がどのような状況で働き、どのような仕事をしているのか明らかでなかった。今回、京都府下の産業看護職の業務実態を把握し、専門性向上のための検討を行うためにアンケート調査を実施した。

2.調査対象

府下事業場に就業している産業看護職142人及び、産業看護職を雇用している事業主142人である。
有効回答は産業看護職97人(回答率68.3%)、事業主43人(回答率30.2%)

3.調査方法

郵送による自記式アンケート調査

4.調査期間

1999年12月1日～2000年1月6日

5.調査項目

調査項目は、産業看護職の個人属性、日常業務、業務の成功要因、業務の阻害要因、専門性向上のための情報収集、事業主の産業看護職に対する期待と評価など26項目とした。

6.調査結果

1. 京都は、大企業が少なく産業看護職は中小規模の事業場や製造業以外の職場にも幅広く就業している。金融業などでは、大阪本社の看護職が京都支店を巡回し、産業看護業務を行っていた。

2. 年齢が35歳以上で、比較的経験を積んだ看護職が多い。その90%が常勤職員として雇用され、しかも長期に働き続け、事業場内では、少数の産業保健の専門家として期待されている。

3. 看護職が、「現在関わっている業務」、「時間を費やす業務」、「重点をおいて行った業務」について調査をしたが、そのいずれも「健康診断に関わる業務」が大部分を占めていた。今後「取り組んで行きたい業務」には、「メンタルヘルス」や「健康教育」が挙げられ、「現在関わっている業務」とは異なっていた。

産業看護職が「今後、取り組んで行きたい業務」は、事業主が産業看護職に期待する業務でもあり、産業看護職の意思と事業主の期待は一致していた。

4. 業務遂行にあたっての阻害要因としては、「知識情報の不足」、「時間の余裕がない」などを挙げており成功要因には、「本人の努力」、「事業場の産業保健活動の活発化」、「時間の余裕」が挙げられていた。

5. 京都産業保健推進センターは、産業看護職の業務遂行にとって唯一の豊富な産業保健情報を提供する存在となっており、今後、研修の開催や相談機関としての役割の重要性も示唆された。

今回の調査により、府下産業看護職の活動実態が明らかになった。更に産業看護職がその専門性を活かした業務を遂行するための考察をなすこともできた。